

研究集会・講座等に関する事業一覧

| プロジェクト名 | 担当部門 | 頁 |
|-----------------------------------|--------------|----|
| 文化財の保存修復に関する国際研究集会（無 05） | 無形文化遺産部 | 65 |
| 平成 18 年度 公開学術講座（調査・研究成果の公開）（美 05） | 美術部 | 66 |
| 近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（*修 06） | 修復技術部 | 67 |
| 国際文化財保存修復研究会（*セ 01） | 文化遺産国際協力センター | 68 |
| 総合研究会（情） | 企画情報部 | 69 |
| 美術部研究会（美） | 美術部 | 69 |
| 保存科学部研究会（保） | 保存科学部 | 70 |

- *注 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究会は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（修 06）の一環として実施した。
- ・国際文化財保存修復研究会は、文化財保存政策の国際的研究（セ 01）の一環として実施した。

第 30 回文化財の保存修復に関する国際研究集会
「無形文化遺産の保護 国際的協力と日本の役割」(無 05-06-1/1)

「第 30 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」は、無形文化遺産部の担当で開催された。

無形文化遺産の保護をめぐるのは、2001(平成13)年のユネスコによる「人類の口承及び無形遺産の傑作」第1回宣言以来、世界各国において急速にその意識が高まりを見せ、その保護の枠組みも2003(平成15)年に締結され、2006年4月に発効した「無形文化遺産の保護に関する条約」により整備されつつある。しかし、長い保護の歴史と経験を有する有形文化遺産の保護と比べ、無形文化遺産の保護に関してはこれから検討していくべき課題が未だ数多く存在している。

今回の研究集会では、関係する研究機関・保護行政関係者等の異なった立場の内外の参加者が、それぞれの直面している問題点や将来的な展望に関して発表し、情報の共有化を図るとともに、この分野における今後の国際的協力のあり方と日本の役割につき、研究的側面を中心として討議を実施した。

日 時：2007(平成19)年2月14日(水)～16日(金) 会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者数：74名(一般参加者のみ)

第1日

開会式

主催者挨拶

鈴木規夫(東京文化財研究所)

基調講演1：日本の無形文化遺産保護と無形文化遺産保護条約

宮田繁幸(東京文化財研究所)

基調講演2：ユネスコ無形文化遺産保護条約

その採択(2003)から第1回政府間委員会開催(2006.11)まで 愛川紀子(ユネスコ)

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

中国の無形文化遺産保護の国際的重要性

白庚勝(中国・中国民間文芸家協会)

日本の無形文化遺産 古典芸能の伝承と将来

飯島満(東京文化財研究所)

第2日

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

無形文化遺産の保護と人間文化財：経験と挑戦

イム・ドンヒ(韓国・東国大学)

日本における『無形文化財』の保護の現状と課題

工芸技術を中心として

佐々木正直(文化庁伝統文化課)

インドネシアの無形文化遺産の保護：システム、計画、活動と問題

ガウラ・マンチャチャリタディプラ(インドネシア・文化専門家)

セッション：各国の無形文化遺産保護の現状と課題

日本の無形民俗文化財の保護

菊池健策(文化庁伝統文化課)

フィリピン：無形文化遺産の保護について

ヘスス・ペラルタ(フィリピン・国家文化芸術委員会)

近年のヴェトナムにおける無形文化遺産の保護とコミュニティの関与

グウェン・キム・ドゥン(ヴェトナム・文化情報省文化遺産部)

セッションIV：国際的協力における日本の経験

伝統芸能の保護と映像記録の役割

福岡正太(国立民族学博物館)

無形文化遺産とコミュニティのキャパシティビルディング

大貫美佐子(財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み

俵木悟(東京文化財研究所)

第3日 総合討議：アドバイザー・植木行宣、佐藤國雄、星野紘

平成 18 年度 公開学術講座（調査・研究成果の公開）（ 美 05-06-1/5 ）

第 40 回美術部オープンレクチャー「人とモノの力学」

美術部では、研究成果を広く公表するために公開学術講座「美術部オープンレクチャー」を毎年秋に開催しており、本年度で 40 回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2 日連続で開講し、聴講者の便宜を図るよう努めた。今回は「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。

今回は、2 日間でのべ 239 人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、211 人から回答を得た（回収率 88 %）。結果は、「たいへん満足した」81 人、「おおむね満足した」103 人、「不満が残った」12 人、無回答 15 人を数え、回答者の 87% が満足感を得たことがわかった。

第 1 日：2006（平成 18）年 10 月 27 日（金）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室

・「10 世紀の造寺造仏」皿井舞（企画情報部）

京都市の南東に位置する笠取山に造営された醍醐寺は、平安時代・貞観年間（859～877）の終わり頃に、聖宝が開創した真言密教の寺である。本講演では、この上醍醐薬師堂に安置されていた、10 世紀初頭の作である薬師如来像について、しばしば指摘されてきた復古的な造形要素とそれが要請された背景を読み解いた。

・「奈良・興福寺の造像と図像継承」瀬谷貴之（神奈川県立金沢文庫）

興福寺は創建以来、災厄にあいながらも、その都度再興されてきた。本講演では同寺の鎌倉再興造像の図像継承を中心に論じた。まず、旧講堂諸尊像の図像の規範性を明らかにし、次いで旧西金堂安置の天燈鬼・竜燈鬼像における古典図像の改変・創意を指摘した。そして、これら興福寺内における図像継承の両者・両様のあり方を位置付けた。

第 2 日：2006（平成 18）年 10 月 28 日（土）午後 1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室

・「雪舟と宗湛」綿田稔（美術部）

雪舟等楊はその制作の大部分を山口で行ったが、ちょうどそのころ京都で活躍した絵師に自牧宗湛という人がいる。現在、宗湛は忘れられており、一方で雪舟は国家の高評価を得ている。本講演では、両者の評価がいつどこで入れかわるのかに注目し、両者の歴史的価値がどの辺りにあるのかを浮き彫りにすることを試みた。

・「本朝画史の情報と成立」五十嵐公一（兵庫県立歴史博物館）

狩野永納の『本朝画史』は日本美術史研究の最重要文献の一つだが、永納はそこに記した情報を一体どのように入手したのだろうか。また、『本朝画史』完成に至るまでにはどのような経緯があったのだろうか。本講演では、この 2 つの問題を永納の交流関係に注目しながら考えるとともに、『本朝画史』を新たな視点から捉えてみた。

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（ 修 06-06-1/5 の一部として実施）

平成 19 年度は、近代化遺産の中でも鉄道遺産の利活用を主なテーマとして研究を行った。1 回目はドイツから、博物館の保存担当官、近代化遺産の保存計画立案者や修復技術者などを招いて、大阪市交通科学博物館において、関西圏の鉄道遺産の研究者の参加も得て、各研究者の視点から鉄道遺産の利活用に関する研究会を行った。また、2 回目では、国内の路面電車の運行事業者の方々にご参加いただき、国内に残る、古い車両を運行するのに必要な整備、技術などに関して研究会を行った。

第 19 回「鉄道文化財の利活用」

日 時：2006（平成 18）年 10 月 26 日（木）10:00～16:00

会 場：交通科学博物館（大阪市）

講 演 者：鉄道文化財の利活用

中山俊介（東京文化財研究所）

ドイツ国内の鉄道文化財の利活用における諸問題

アルフレッド・ゴットヴァルト（ドイツ技術博物館）

2004 年ドイツ国内の鉄道博物館、鉄道会社の保存車両調査について

ロルフ・ホーマン（ドイツ・産業考古学事務所）

ドイツ鉄道博物館における大型展示物に関する新手法

ヨアヒム・プロイニンガー（ドイツ鉄道博物館）

加悦鉄道遺産と向き合った 10 年

森本寿（特定非営利活動法人加悦鉄道保存会）

JR 西日本における鉄道文化保存活動について

松本茂樹（西日本旅客鉄道株式会社）

第 20 回「路面電車の運行と文化財の保存」

日 時：2007（平成 19）年 3 月 10 日（土）10:00～16:00

会 場：東京文化財研究所会議室

講 演 者：路面電車の運行と文化財の保存

中山俊介（東京文化財研究所）

路面電車の整備保存について

藤元秀樹（広島電鉄株式会社）

熊本市電の歴史と現況

宮崎輝昭（熊本市交通局）

だるま会の活動報告と現状

遠藤徳保（東京都交通局）

国際文化財保存修復研究会（セ01-06-1/5の一環として実施）

目 的

文化財は、個々の地域の文化と伝統を反映し、地域の人々の思いに支えられて現代に伝えられたものであり、その内容、材質、おかれていく物理的な環境の違いとともに、文化財自体に対する人々の接し方、保存の考え方にも違いがある。国際協力による文化財保存とは、パートナーとなる国や地域の状況を理解し、同時に私たち自身の文化財保存についての考え方や方法を理解してもらいながら、互いの協力によって推進されるべきものである。日本の専門家による海外の文化財保存事業への参加がますます増えている現在、東京文化財研究所は、みずから国際的な文化財保存活動に参加するとともに、専門家相互のネットワークを作り、情報交換の場を提供していくことを大きな使命と考えている。このような目的から、国際文化財保存修復研究会を開催し、さらには文化財をとりまく社会の問題、文化そのものの問題など、多岐にわたる情報交換の場を提供している。

成 果

平成18年度は、以下のとおり研究会を実施し、またその報告書を出版した。

テ ー マ：文化遺産の生物劣化と国際協力

趣 旨： 建造物や遺跡など、屋外にある文化財の表面に、苔や地衣類などの生物が繁茂することは頻りに観察され、国際協力を進める中でそうしたものにどう対処するかが求められる機会が増している。そこで専門家を招聘し、具体的にそうした生物の存在が文化遺産に対してどのような影響を与えるのか、そしてそれに対してどのような対処が適切か、という議論を行った。

日 時：2006（平成18）年10月25日 9：50～17：30

会 場：東京文化財研究所セミナー室

出席者数：76人

講演内容：屋外文化財の生物劣化と保存

ジュリア・カネーヴァ（ローマ第三大学）

微生物の岩石風化への影響

宋苑瑞（筑波大学大学院）

タイにおける遺跡の生物劣化

チラーポン・アラヤナーク（タイ国立博物館）

石造文化財保存のための生物除去法—熊野磨崖仏他事例報告—

川口孝（正栄建築）

報告書出版 1冊 『第20回国際文化財保存修復研究会報告書』 07.3



発表風景



総合討議の様子

総合研究会（情）

総合研究会は、各研究部・センターの研究員が各自テーマを設定してプロジェクトの成果を発表し、テーマに関して所内の研究者間で自由討論する形式をとっている。その運営は、企画情報部が担当している。平成18年度は、以下のスケジュールで実施した（会場：東京文化財研究所セミナー室）。

- ・第1回 2006（平成18）年6月13日（火）
中野照男（美術部）「大谷探検隊将来衆人奏楽図 図像の再検討と光学的・科学的調査による知見」
- ・第2回 2006（平成18）年7月4日（火）
稲葉信子（文化遺産国際協力センター）「文化遺産保護の現在 世界的な動向を日本との比較において」
- ・第3回 2006（平成18）年10月3日（火）
山梨絵美子（企画情報部）「帝国美術院付属美術研究所設立経緯とその社会的背景」
- ・第4回 2006（平成18）年12月5日（火）
高桑いづみ、飯島満（無形文化遺産部）「文化財保護委員会作成の無形文化財録音資料をめぐって」
- ・第5回 2007（平成19）年1月9日（火）
中山俊介（修復技術部）「戦艦三笠と南極観測船 宗谷の保存修復」
- ・第6回 2006（平成18）年1月9日（火）
吉田直人（保存科学部）「染料の非破壊分析 紫外・可視分光法」

美術部研究会（美）

美術部ではほぼ月に1度のペースで美術史研究者による研究会を開催、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに議論によってその充実を図っている。平成18年度は下記のような研究会が行われた。

- 5月24日 根生いの分限、画家への変貌 尾形光琳をとりまく環境と画風形成 江村知子（企画情報部）
- 6月28日 善光寺式阿弥陀如来像 仏像そのものを原型にして鑄造・増殖する作例の紹介
津田徹英（美術部）
- 9月27日 黒田清輝がいる「場所」 自邸・葵橋洋画研究所・墓所 田中淳（美術部）
- 12月18日 曾我物語図の系譜および土佐派の物語絵について 宗達、光琳へとつづく絵画表現の水脈
江村知子（企画情報部）
土佐光吉と大画面絵画 相澤正彦（客員研究員・成城大学）
発禁美術図書について 青木茂（客員研究員・文星芸術大学）
- 1月10日 絵画の表面について 小出楯重を例に 小林未央子（美術部）
- 2月7日 横浜・龍華寺蔵 菩薩半跏像をめぐる知見 津田徹英（美術部）
- 2月28日 平安時代前期の工房と上醍醐の造像 皿井舞（企画情報部）
- 3月28日 川端玉章の研究 塩谷純（美術部）

その他、国際シンポジウムに向けての討議を6回（4月26日、5月31日、7月5日、7月26日、8月10日、9月6日）にわたって行った。

保存科学部研究会（保）

（１）「木質文化財の生物劣化対策」

日 程：2006（平成18）年11月16日（木）

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者：99名

講 演 者：文化財のシロアリ被害・対策と今後注意すべき“乾材シロアリ”について

山野勝次、小峰幸夫（（財）文化財虫害研究所）

菌類による木材の劣化とその対策

桃原郁夫（独立行政法人森林総合研究所）

文化財建造物の調査と修理手法について

前堀勝紀（（財）文化財建造物保存技術協会）

虫菌害対策の実践と予防

斎木勝（千葉県教育庁教育振興部文化財課）

地区管理文化財の虫菌害管理へ向けての試み

布施慶子（君津市立久留里城址資料館）

カナダにおける屋外木質文化財の虫菌害対策

Tom Strang (Canadian Conservation Institute)

（２）「文化財を取り巻く環境の温湿度解析」

日 程：2006（平成18）年12月7日（木）

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参加者：58名

講 演 者：文化財を取り巻く環境の温湿度解析

石崎武志（保存科学部）

静岡県立美術館内の温湿度環境

新田建史（静岡県立美術館） 犬塚将英（保存科学部）

古墳の石室内および周囲の温湿度環境の解析

小椋大輔（京都大学）

歴史的建造物内の環境の温湿度解析

John Grunewald（Syracuse 大学）

（３）「絵図資料の科学的調査にむけて」

日 程：2007（平成19）年2月28日（水）

会 場：東京文化財研究所会議室

参加者：29名

講 演 者：絵図研究と科学的調査

杉本史子（東京大学史料編纂所）

色彩材料目視調査、絵図模写の経験から

村岡ゆかり（東京大学史料編纂所）

色彩調査記録の方法について

降旗千賀子（目黒区美術館）

走査型電子顕微鏡による構造等調査

佐野千絵（保存科学部）

蛍光 X 線分析による顔料調査

早川泰弘（保存科学部）

反射分光法による染料調査

吉田直人（保存科学部）